

## はじめに

この教材は、日本に暮らす外国人が、生活のための日本語を学びながら日本語学習を自律的・継続的に進めるようになっていくことを目指して作りました。

周知のとおり、日本に暮らす外国人の数は年々増えています。しかし、その中には、仕事や子育てなどのために、日本語学校に通うといった、集中的な日本語学習ができない人がいます。日本社会の一員として十全な生活を送るに足る日本語能力を身につけないまま、何年も暮らしている人たちが少なくないのです。

学習院大学のある豊島区も人口に占める外国人の率は9%を超えていますが、同様の傾向が見られます。そこで、私たちは2013年に文化庁『『生活者としての外国人』のための日本語教育事業（地域日本語教育実践プログラム（B））』を受託し、「学習院大学わくわくとしま日本語教室」を開設しました。以来、地域に根差した日本語教室、日本語教育を専攻する学生の専門性を生かした教室を運営しています。そして、2016年度はこれまでの実践を踏まえ、ひとまとまりの教材を開発すべく、文化庁生活者事業の地域日本語教育実践プログラム（A）を受託しました。

「日本にいるのにどうして日本語が上手にならないの」とか、「自分でちゃんと勉強すればいいのに」といった声はよく聞かれます。しかし、なかなかそうはいかないのが人間です。し、実際のところ、「ちゃんと勉強しよう」と思ったとしても、生活者向けの教材やコースは整備の途上段階であり、学習を続けられる環境ではないと言えるでしょう。さらに、仕事や子育てで忙しい人たちは、長い時間を教室での対面学習に費やせるわけではありません。教室で勉強する時間や期間は短くても、その限られた時間の中で、日本語を学ぶ意欲や学ぶ力を十分に引き出し、その後の日本語学習を支えるような基本的な日本語能力を身につけること、自律的に学んでいくためのヒントが得られることが、生活者向けの日本語教育では重要なのではないのでしょうか。

これらを基本方針として、「わくわくとしま日本語教室」のコースを設計し、教材を開発しました。教材として、学習ポートフォリオと各課教材を作成し、学習項目やテーマは文化庁「標準的なカリキュラム案」とその関連資料をもとに選定しています。

今後は、使用を重ねながら、教材の改善を行うと同時に、指導マニュアルの整備をしていく計画です。多くの方に御覧いただき、御意見を頂戴できればと思っております。

2017年3月

学習院大学わくわくとしま日本語教室  
責任者 金田智子